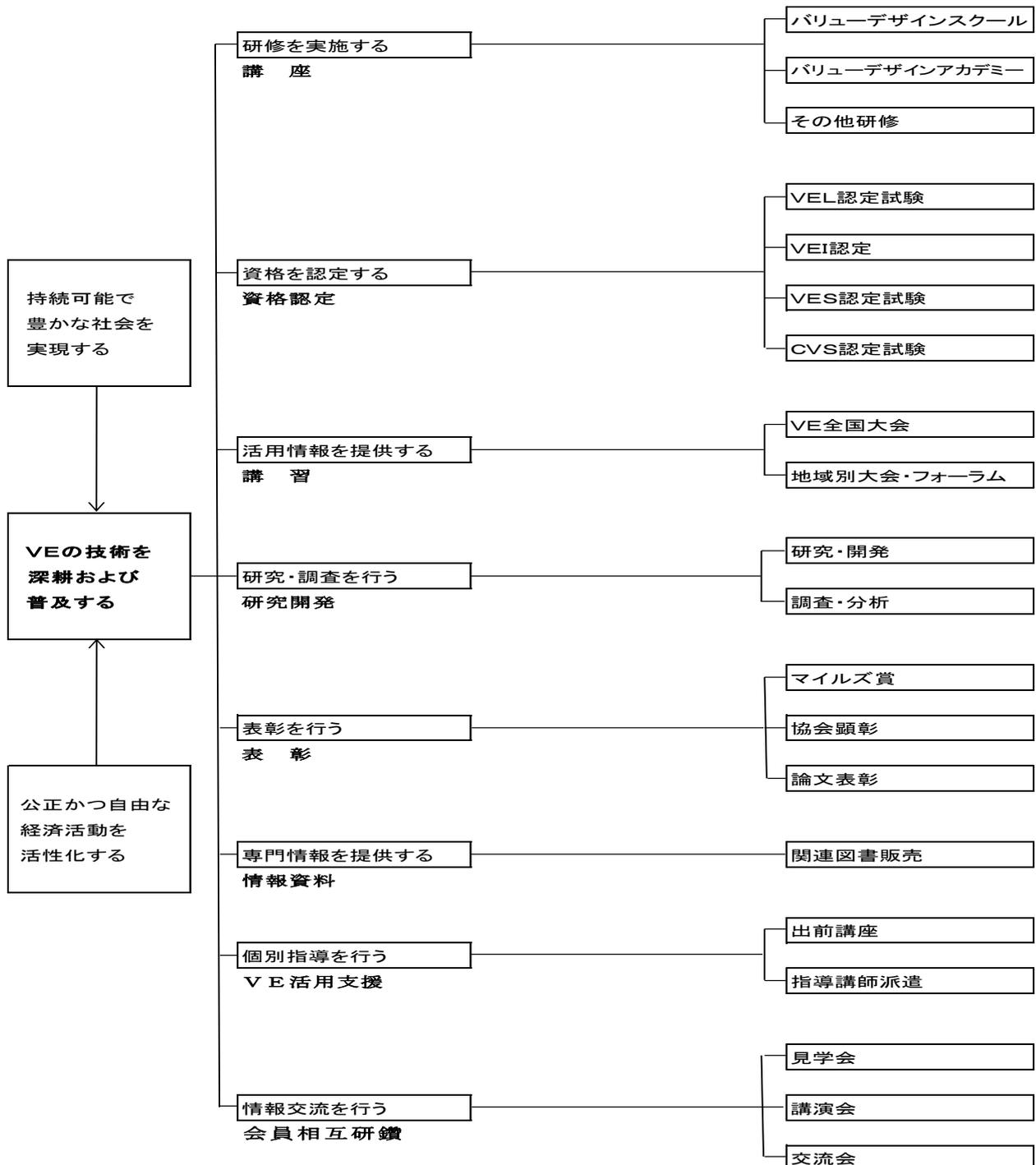


2025年度 事業計画書

(2025年 4月 1日から2026年 3月31日まで)

2025年度も引き続き、(1) 持続可能で豊かな社会の実現、(2) 公正かつ自由な経済活動の活性化、(3) V E技術の深耕・普及等を目的に、次の各事業を積極的に展開して参ります。



1. 講座

ここでは、①次世代のVEリーダー育成を目的に、不特定多数の人々を対象としてVEに関する基礎知識を修得していただく講座、及び②実務でVEを積極活用できる専門家の育成を目的に、VEの基礎知識を有した人々を対象としてVEの実践力を修得していただく講座等を行う「バリューデザインスクール」、VEを通じた社会インパクトの創出を促すことを目的に、様々な課題解決にVEを応用したい人々を対象として、VE+αの知識・スキルを修得していただく「バリューデザインアカデミー」等を開催する。

※以下講座の講師は、CVS（Certified Value Specialist）又はVEスペシャリスト（VES）の有資格者に委嘱することを原則とする。

1) バリューデザインスクールの開催

VEリーダー（VEL）・VES及びCVS認定試験の受験資格要件も満たせる講座や、VES及びCVSの更新要件も満たせる講座並びにVEI資格の取得を目指す講座として、次の講座を主にオンライン（一部対面）で開催する。

講座名	開催日
3時間で学ぶVEの基本	6月13日、11月7日
1日で体験するVEワークショップ	6月20日、11月14日
ファシリテーション入門	7月3日
VEの原点的思考（機能分析中心）	7月18日
VEで活用するアイデア発想	7月25日
VE活動で求められるファシリテーションの実践	8月1日・6日・26日
製品改善ワークショップ	8月21日～22日
企画段階のVE	8月27日
VEに活かす“数字力”養成	9月11日
機能の整理法	9月12日
開発設計のVE	9月24日～25日
参加者から情報を導き出す質問とフレームワーク	9月26日
VEブラッシュアップ①基本編	9月30日
VEブラッシュアップ②短文記述編	10月6日
VEを組織的に適用するためのマネジメント	10月14日
「目からウロコ」の“見積業務”その重要性和価値向上への活かし方	10月16日
VEブラッシュアップ③論述編	10月20日
製品改善ワークショップ（対面）	10月22日～23日
VEインストラクター養成講座（VES／CVS対象）	11月28日
VEインストラクター養成講座（VEL対象）	2月4日～5日

2) 「バリューデザインアカデミー」の開催

- (1) 新しい時代の公益法人の役割として「新たな事業展開にチャレンジして新たな社会的価値を創造し、成果として社会的インパクトを創出していくこと」が求められる中、VEを通じて「持続可能な価値 (Sustainable Value)」を創造できる人材を育成することによって社会的インパクトの創出を目指すべく、次世代バリュー・エンジニアの養成プラットフォームとして「バリューデザインアカデミー」を開催する。
- (2) 「バリューデザインアカデミー」のプログラムとスケジュールは次の通りとする。

プログラム名	開催日
開講式	4月 8日
VE 講座 2期生 (1年生)	6月10日、 8月 5日、10月 7日、12月 5日、 2月10日
VE 講座 1期生 (2年生)	4月15日、 6月24日、 8月 1日・ 6日・26日、10月14日、 12月 9日、 2月16日
+ α 講座	5月13日、 7月 8日、 9月 2日、11月 4日、 1月13日、 3月10日
オープンコンサルティング	4月22日、 5月27日、 6月18日、 7月22日、 8月19日、 9月30日、10月21日、11月18日、12月16日、 1月27日、 2月24日
特別講座：CVS 試験対策講座	調整中
特別講座：論文対策講座	調整中
特別講座：論述力講座	調整中
修了式	3月24日

3) その他研修会等の開催

(1) バリューデザイン・フォーラム (旧・経営者フォーラム) の開催

企業・団体等における価値創造活動においてVE的思考を幅広く積極的に活用していただくことを目的に、経営幹部や学識経験者、コンサルタント等の講演を主な内容とする講演会を年度内に3回開催する。

(2) 通信講座の開講

① VEの基礎

地理的・時間的な都合等で通学講座の受講が難しい人にも、VEの基礎を学び、VEL資格認定試験の受験資格を得られる機会を設ける。

② はじめての企画・開発メソッド ～ 0 Look / 1st Look VE ～

VEの基礎を学んだ人、VEL有資格者等を対象に、企画・開発業務にVEを活用する方法を学んでいただく機会を設ける。

(3) バリュー・デザイナー育成講座の開講

未来志向で持続可能な価値を企画・創造するプロセスにおいて、VEをコアスキルにビジネスプロデューサーとして活躍できる人材を育成することを目的に、自己学習とワークショップを組み合わせた教育を行う。

(4) 開発設計業務でのVE・原価企画等に関する講座のオンデマンド配信

VES及びCVSの更新要件も満たせる講座として、主に開発設計業務でのVE・原価企画等に関する次の6講座をオンデマンド配信する。

講座名	配信期間
開発設計業務でのコストエンジニアリング	① 6月 9日～27日
企画・構想段階の機能と品質の決め方	② 2月 9日～27日
企画から生産までの原価企画実務上の留意点	
コストテーブル作成・活用の体験	① 9月 8日～26日
DFA (Design For Assembly) 体験	② 1月 13日～30日
Modular Design実践手順と活用ツールの体験	

(5) CVSによるVE技術者育成支援

日本国内のCVS有資格者で構成されている「CVSフォーラム」において、VE技術者の育成を目的とする相互研鑽やVEに関する実務的研究及び調査・分析を行う。

(6) 公共機関でのVE技術者育成支援

行政機関等で構成されている「全国VE活動推進研究会」を支援すること等で、公共機関でのVE技術者育成を支援する。

(7) 教育機関におけるVE導入促進と普及

- ① 立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科主催の課題解決型長期企業実習「プラクティカム」に協力団体として登録。同研究科の大学院生に管理技術による改善指導の手法を学習する機会を本会中国統括事務所（旧・上海VE協会）の協力を得て9月～1月に提供。4～8名の参加枠とし、1月に成果発表会を開催予定。
- ② さらに、立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科と中国コンサルティング企業で共同実施する管理技術としての意思決定技法の研究を、本会が窓口としてサポート。

※ 上記のほか、様々な講座を必要に応じて適宜開催する。

2. 資格認定

ここでは、企業・団体等の組織でVE活動のリーダーを務めるために必要な基礎知識を習得していると認められた人に授与される「VEL」資格、社内でVE基礎研修の講師を務めるために必要な知識及びスキルを修得していると認められたVEL有資格者に授与される「VEインストラクター（VEI）」資格、責任者・担当者としてVE活動の実施・推進の任に就くVE専門家として備えるべき諸知識や技術を習得していると認められた人に授与される「VES」資格、VEに関する知識・技能・経験が極めて高い水準に達していると認められた人に授与される「CVS」資格の認定を行う。

1) 資格認定制度の整備・体系化

- (1) 2024年度の制度改定によりCVSを国際資格と明確に位置づけ、VESをこれまでのCVSに相当する国内資格と位置づけたことを受け、希望するCVSにVESの終身登録を行う。

- (2) 米国VE協会から改定後のCVS資格認定制度運用に関する情報を引き続き収集し、追加対応が必要な場合はその方法を検討して行い、米国VE協会に報告する。
- (3) 日本におけるCVS資格を国際資格と位置づけ、国際資格に相応しい制度運営をするための制度改定と、制度運営を今後さらに米国VE協会へと近づけるための検討・準備を引き続き行う。
- (4) 米国VE協会が10月に予定しているCVS資格認定制度の一部改定に対応するための検討を引き続き行う。

2) 資格認定試験の実施

第58回 V E L 認定試験（前期）	4月18日 ～ 7月31日【CBT方式】
第59回 V E L 認定試験（後期）	9月 1日 ～ 2月28日【 〃 】
第28回 V E S 認定試験	12月 6日
第46回 C V S 認定試験	11月15日

3) V E I 資格の認定

2025年度開催の「VEインストラクター養成講座」を受講・修了した人に対して資格を付与する。

4) V E L 有資格者の継続教育

VE L有資格者のスキルアップに役立つ内容のセミナーを、必要に応じて随時開催する。

5) 「バリュー・エンジニアリング」誌の編集・発行

VE L（A登録者）並びにVES及びCVS（終身登録者を除く）有資格者のVE技術水準の維持・向上を主目的に、VE活動事例やVEに関する研究成果等を掲載した「バリュー・エンジニアリング」誌を編集し、電子版として年4回発行する。

6) 更新登録の実施

VE L、VES、CVS登録者の更新登録及び終身登録を行う。

3. 講 習

ここでは、VE活動推進の参考になるノウハウやヒント、さまざまな関連情報の提供を目的に、VEに興味がある人やVE L等の有資格者、学生等を対象とした「バリュー・カンファレンス（VE全国大会）」、VE関西大会等の「地域VE大会」、「VEフォーラム」を開催する。これらの大会及びフォーラムは、必要に応じてオンラインで開催することも検討する。

1) 「バリュー・カンファレンス2025／第58回VE全国大会」の開催

開催日	対面開催：10月10日（東京都内）
	オンデマンド配信：11月1日～11月30日を予定

2) 地域VE大会の開催（西日本支部 関西地区、中四国・九州地区）

大会名	開催日	開催方法
第57回 VE 関西大会	2月	会場とオンラインの同時開催
第68回 VE 西日本大会	9月	オンライン開催

3) VEフォーラムのオンライン開催（西日本支部 関西地区）

	開催日	開催方法
VEスプリングフォーラム	5月15日	会場とオンラインの同時開催
VEサマーフォーラム	8月	会場とオンラインの同時開催

4. 研究開発

ここでは、日本とウズベキスタンの教育協力を通じた次世代PBL (Project Based Learning) モデルの設計を目的に、学識経験者がシステムデザイン思考型メソッドの大学教育への適用とその影響の調査・研究を行う等の「開発研究会」、実務で展開するためにVEの導入や水平展開を模索している人がVE推進や実践上の課題等について研究を行うVE推進部会等の「機能別部会」、2時間VE手法のさらなる洗練化や活用局面拡大等を目的に、ゼネコンや設計コンサルタントなど建設関連分野のVE入門者や推進実務担当者が具体的なテーマでの演習等を通じて同手法についての研究等を行う中部・建設VE研究会等の「専門研究会」を設置する。

1) 「バリューデザイン・ラボ」での先端的・実務的研究及び調査等の積極推進

- (1) 日本・ウズベキスタン共同による次世代PBL (Project Based Learning) モデルの設計を行う研究会を設置。PBLの本質的な意義に立ち返り、日本とウズベキスタンの教育協力を通じた次世代型PBLの設計を目的とする。従来型PBLにおける課題を抽出し、管理技術の理論を活用することで、学習者の実践力をより高める学びの仕組みを構築する。
- (2) 米国VE協会が主催するSAVE Value Summit (インドで開催) に参加し、海外諸国の研究動向についての情報を収集する。

2) 各支部での実務的研究の推進

(1) 機能別部会での研究活動

東日本支部に7つの機能別部会を設置してVEに関する実務的な研究を進め、その成果を報告会又はレポート (VE資料) 等で広く公表する。

① VE情報交流部会	② VE推進部会	③ マーケティング部会	④ R&D部会
⑤ ものづくり部会	⑥ 資材調達部会	⑦ 社会インフラ部会	

(2) 専門研究会での研究活動

西日本支部（東海地区・関西地区）に専門研究会を設置してVEに関する実務的な研究を進め、その成果を発表会又はレポート（VE資料）等で広く公表する。

西日本支部（東海地区）	① 中部・建設VE研究会
西日本支部（関西地区）	① 経営革新を生み出す生き生きVE研究会 ② VEツール研究会 ③ サービス領域でのVE適用方法研究会 ④ 原価企画の問題解決研究会 ⑤ テアダウン研究会

5. 表彰

ここでは、経常的な活動展開への動機づけや規模の大小を問わず企業等におけるVE活動の促進・活性化を目的に、研究開発、普及促進及び本会諸活動で顕著な成果を挙げた人又はグループを対象とした「協会顕彰」、VE技術水準の向上とVE活動のさらなる活性化等を目的に、バリュー・エンジニアや公的機関、学生等を対象とした「VE実践論文」の審査及び表彰を行う。

1) 協会顕彰の実施

VEの研究開発や普及促進等で功績を挙げた個人や団体等に、顕彰規程にもとづいて次の各賞を「バリュー・カンファレンス2025／第58回VE全国大会」で授与する。

- ① 研究開発功績賞
- ② 普及功労賞
- ③ 協会賞（VE経営者賞、VE功労賞、VE学術功績賞、VE国際功労賞、VE特別功績賞、VE活動優秀賞、VE活動奨励賞）

2) VE実践論文の審査・表彰

- (1) VE実践論文を「バリュー・カンファレンス2025／第58回VE全国大会」の開催にあたって募集。応募のあった論文の審査を「審査・認定委員会」内に設置されている「論文審査部会」で行い、その結果入選となったものの表彰を同大会で行う。
- (2) VE実践論文は上記以外でも随時提出を受け付け、査読の結果採択となった論文は原則としてVE誌に掲載する。
- (3) VE実践論文でなく、学術的な研究論文の応募があった場合は、一般社団法人日本システムデザイン学会と連携し、査読・発表の機会を上記と別に設けることとする。

6. 情報資料

1) 研究成果の資料化

各支部での実務的研究の成果をVE資料として纏め、公表する。

2) VEテキスト・教材・関連資料等の発行・販売

- (1) 「バリュー・カンファレンス2025／第58回VE全国大会」VE実践論文集・資料集、VE普及のための図書等を発行する。
- (2) ワークシート、アイデア発想ラベル・機能定義カード、VELバッジなどVE実施や推進のためのアイテムを販売する。

3) VEテキスト・関連資料等の翻訳・発行

- (1) 講座テキストやVE資料等を英語、中国語等に翻訳し、発行する。
- (2) 本会が発行しているVE資料、研究資料等の翻訳も進める。

4) VE関連書籍・資料・教材等の販売

VEの学習及び研究、普及促進に資するため、VE関連専門図書を仕入れて販売する。

5) VE研究論文等のネット販売

協会Web Site内に開設したVE論文検索・購入サイト「VE論文navi」で電子化した過去のVE研究論文及びVE実践論文を販売する。

7. VE活用支援

1) 日本国内における出前講座・オンライン講座の実施及び指導講師の派遣

企業・団体等からの要請に応じて出前講座・オンライン講座を実施、又は指導講師を派遣し、VEの個別指導、コンサルティング等を行う。

2) 海外でのVE教育支援

- (1) 本会の中国統括事務所（旧・上海VE協会）が行う中国でのVE研修、資格認定等を支援するとともに、中国及び海外でのVE研修、プロジェクト指導等の担い手となる人材の募集や養成に注力する。
- (2) 旧・上海VE協会の会員企業や個人会員が本会主催のオンラインイベント（大会・講演会・研究会等）に参加し、VEへの理解を深める場を提供するための環境を整備する。
- (3) 海外向けにVE研修プログラム（VE基礎講座・サービス系ソフトVE講座）を標準コースとして開発するとともに、海外でのVE資格取得を促進させる。
- (4) 企業・団体等からの要請に応じて出前講座・オンライン講座を実施、又は指導講師を派遣し、VEの個別指導、コンサルティング等を行う。

3) VEワークショップ・セミナー（48時間以上）の認定と再認定

- (1) 企業や団体が主催するVEワークショップ・セミナー（48時間以上）のうち申請のあったものについて審査・認定を行い、その修了者がVES認定試験の受験要件であるVE学習経歴を満たせるようにする。
- (2) また、登録済みの認定VEワークショップ・セミナーについて、4年ごとに再認定を行う。

8. 会員相互研鑽

1) 見学会・講演会等の開催

各支部においてオンラインでの見学会・講演会等を活動計画にもとづいて開催し、VEに関する情報交流を行う。

9. 広報活動

1) メールマガジンによる情報発信

- (1) メールマガジン「VE情報メール」を毎月1回発行し、VEや本会に関する最新情報を積極的に発信する。また、主催する大会・セミナー等の案内や募集などPR活動にも積極的に利用する。
- (2) 「バリューデザインアカデミー」に関する情報を不定期でメール配信し、2026年度以降の参加を促す。

2) 協会Web Site等による情報発信

- (1) 協会Web Siteをインターネット上で運営する。サイトデザインをリニューアルし、ユーザーインターフェース及び更新作業の改善を行ったうえで情報の定期更新を行い、VEや本会に関する最新情報発信のツールとして有効に活用する。また、各種SNSと連携させることで、発信力の強化を図る。
- (2) 「バリューデザインアカデミー」のランディングページを開設し、広告やSNSと連携させてウェブサイトへの流入を促し、新規層へのアプローチを強化する。

3) インフラメンテナンス国民会議への参加

国や自治体、企業、研究機関、NPO等で構成されるインフラメンテナンス国民会議に参加し、情報を収集するとともにVE関連情報の発信を図る。

4) 他団体との連携による広報

連携に賛同いただける団体と相互にイベントを後援し合い、またPRに協力、参加費の割引を行う等して、VEの普及促進を図る。

5) アジア圏を中心とした海外向け情報発信の拡充

- (1) オンライン化により海外でのVE教育、実践指導、資格認定の可能性も広がったことから、協会Web Siteや情報・資料、動画セミナー等のコンテンツを英訳・中国語訳し、積極的に発信する。
- (2) 米国VE協会の海外提携団体と協力し、海外、とりわけアジア諸国のVE関係者との連携を強化し、VEの普及促進を図るための協力体制を築く。

10. 会 議

1) 定時総会の開催

第15期 定時総会	6月11日
-----------	-------

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

2) 理事会の開催

第49回	第50回	第51回
5月13日	9月 2日	3月17日

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

3) 「本部企画委員会」の開催

各支部の支部長、各委員会の委員長、事務局長で構成し、年度計画の調整や事業推進における意思疎通を図るための「本部企画委員会」を年度内に1回、対面又はオンラインで開催する。

以上